

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛驒吉城特別支援学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月30日(木) 10:00～12:00
- 3 開催場所 飛驒吉城特別支援学校 多目的室
- 4 参加者

会長	都竹 薫子	本校PTA会長
副会長	柚原 誠	神東会理事長
委員	古里 淳朗	殿町20区区長(欠席)
	蓑輪 一幸	同窓会保護者役員
	中村 泰己	青龍会会長
	中切 智子	飛驒市地域生活安心センター長
	奈木 桂子	福祉サービス事業所ピース理事長
	下出 尚弘	古川小学校校長
オブザーバー	沖畑 康子	飛驒市教育委員会教育長(欠席)
学校側	駒田 美奈	校長
	長瀬 朋彦	教頭
	坂垣内 徹	事務長
	北川 貴美	小・中学部部主事
	塚本 和幸	高等部部主事
	中田 健太	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 学校運営の基本方針について
- (2) 小学部の教育活動について
- (3) 中学部の教育活動について
- (4) 高等部の教育活動について
- (5) 新型コロナウイルス感染症対策について
- (6) 授業参観
- (7) 働き方改革について

(8) 高等部作業学習の製品価格について

委員から適正な価格であると承認が得られた。

意見1：製品をどれだけ作って、どれだけ売れたか知りたい。

⇒次回の会議で資料を提示する。

意見2：生徒が無理なノルマを課されていることはないのか。

⇒ノルマはなく、生徒は自分のペースで製作している。

意見3：売れている製品や、生徒が楽しんで製作している他の製品についても知りたい。

⇒次回の会議で製品を紹介する。

意見 4 : 作業製品の品質がよいので、いつも期待している。

意見 5 : 仕様や色彩など考えられている製品である。

(9) 意見交換 (授業の様子感想等)

意見 1 : 新型コロナウイルス感染症予防のため、生徒は 2 年前から体操服で登下校していたが、現在はどうか。

⇒体操服に指定しているわけではない。制服で登校する生徒もいる。

意見 2 : せっかく制服を買ったのに、着る機会が少ないという意見もある。

意見 3 : 以前と比べて、よい意味での変化が見られた。校内の掲示物が増えて、バージョンアップしている。気がついたことを意見として伝えていきたい。

意見 4 : 高等部の授業で、かつて就学指導をした生徒の姿があり、大きくなってうれしかった。個々に丁寧に対応しており、学びにつながる活動になっている。この環境なら保護者の皆さんも安心して児童生徒を通学させることができるかと実感した。

小中学校との直接交流を進められるとよい。

⇒新型コロナウイルス感染症の状況を把握しながら是非行いたい。

意見 5 : 顔見知りの児童が成長を遂げていた。

以前車椅子利用だった児童が歩けるようになったと聞いたが、特別な取組をしたのか。

⇒体幹を鍛えたり、重心移動を体得させたりするなどの活動を積み上げ、継続して取り組んだ。

意見 6 : 一人一人丁寧に指導できている。しかし、卒業後社会に出ると、そこまでの人員は配置できない。余暇の過ごし方やお金の使い方が分からない従業員もいるため、在学中に学習しておくとうい。

周りと関わる力をつけることが大切である。

協力できる仕事があれば、ボランティアの形でもよいので、学校とつながりたい。

意見 7 : 成人の方の困り感として「お金がない」という相談が増えているが、就労に繋げることは難しい。自己理解を深めさせて、様々な事象への対応方法を教えてもらえるとありがたい。

成人年齢が 18 歳になったことで、クレジットカードの作り方や選挙制度など、大人になるために必要なことも指導してほしい。

⇒授業に組み込んでいきたい。

意見 8 : マンツーマンで指導している様子を見ることができた。児童生徒が地域に関わって生活することを期待している。もっと地域に出る機会を創出してほしい。

⇒新型コロナウイルス感染症予防による制約がある中だからこそ、外に目を向けなければならない。協力をお願いしたい。

(10) その他

- ・学校評価アンケートを依頼。
- ・第 2 回学校運営委員会は 11 月を予定。

6 会議のまとめ

- ・第 1 回学校運営協議会において、全委員より本校の今年度学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・働き方改革、新型コロナウイルス感染症予防対策に取り組むことで、教育の質が落ちることのないよう実践を積み重ねる。

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して、地域とのつながりが持てる活動を計画し、実施できるように検討する。
- ・学校だよりや学校ホームページを利用して地域に学校の活動について発信し、より一層学校の理解啓発を進めていく。